

1 地域の概要

千種町域は宍粟市の北西部に位置し、岡山県・鳥取県に隣接する県内最西端の地でもあります。人口は平成17年の合併時点で4,023人でしたが、平成30年1月末には2,932人、約27%の減となり、市内でも人口減少の顕著な地域といえます。

一方、千種町域には豊かな自然や観光施設など様々な地域資源があります。なかでも日本の名水100選に選ばれた清流千種川や、たたら製鉄の伝統を今に伝える天兒屋鉄山跡は、県内にも類を見ない貴重な地域資源です。また、スキー場やゴルフ場などのレジャー施設が立地していることも、地域の大きな特色と言えます。

加えて温泉施設やレストラン機能を備えた保健福祉センター(エーガイヤちくさ)、市内で最初に整備された認定こども園、昨年オープンした温水プール、ミニ図書館などの施設も充実しており、保健福祉や子育ての面では優れた環境を備えていると言えます。

2 現状と課題

将来にわたって持続可能な地域を実現してゆくためには、地域の「強み」を活かして「弱み」をカバーしながら様々な世代の住民が安心して暮らし続けられる地域づくりを進める必要があります。「千種生活圏の拠点づくり検討委員会」においては、これまで計5回(視察研修を除く)の議論の中で、地域の「強み」と「弱み」を次のように整理しています。

(1) 千種の魅力(強み)

① 温かい人柄・地域コミュニティ

人柄のあたたかさや、困った時に助け合う地域性など、良い意味での田舎らしさがある。

② 特色があり、充実した既存施設

市内唯一のゴルフ場や、播磨圏域の3つのスキー場の内の1つが立地するなど特色あるレジャー施設を備えている。また、温泉施設・レストラン・屋内運動場などを備えた保健福祉センターや温水プール、市内初の認定こども園、ミニ図書館など、子育て環境においても魅力ある施設を備えている。

③ 豊かな自然環境・観光資源

「日本の名水100選」に選ばれた清流千種川や、歴史的な価値の高い天兒屋鉄山跡、日本最大級のクリンソウ群落、県内第2位の高さを誇る三室山、スキー場、ゴルフ場など、豊かな自然環境と豊富な観光資源を備えている。

④ 地域に根付いた伝統文化

たたら製鉄体験が、中学校の地域学習にも取り入れられており、木工品・竹細工・藁細工等の手仕事など、地域に根付いた伝統文化が受け継がれている。

⑤ 県境に隣接した立地条件

県境に隣接した立地で、鳥取県や岡山県へのアクセスが容易であるとともに、鳥取道のインターチェンジにも近く、観光や教育、商業面で中国圏との交流も期待される。

⑥ 良好な子育て環境

子育て支援センターや認定こども園等においては、様々な活動を通じて手厚い子育て支援が受けられる。また、豊かな自然の中でのびのびと子育てが出来る事や、地域で子供を見守るコミュニティ環境など、良好な子育て環境を備えている。

(2) 千種の課題(弱み)

① 交通の不便

交通に関しては、自家用車への依存が大きいため高齢化による免許返納者の増加に伴い、日常的な移動手段の確保が困難になることが懸念される。また、高校生など若い世代はバスの利用が多いが、本数が少ないため利便性を欠く。

② 買い物の不便

大型のスーパーや量販店までの距離が遠く、将来的には既存小売店舗の撤退や縮小も懸念されるため、交通の問題と合わせて買い物に対する不安が高まっている。

③ 高齢者の生活不安

交通や買い物の不便と合わせて、今後さらに増加が予想される高齢者世帯において日常生活の維持に関する不安が広がっている。

④ 公共料金の負担感

水道料金や介護保険料など公共料金の負担感が強い。

⑤ 若者の地域離れ(働く場の不足)

地域内では若者にとって魅力が高いとされる職場が限られており、また地域外で就業する場合には交通の便にも課題があることから、若者の地域離れが進んでいる。また、千種高校の存続も若者の定着に大きな影響を与えられ考えられる。

⑥ コミュニティに対するマイナスイメージ

地域での子育てや、高齢者の支えあいのため地域コミュニティの重要度が増す一方で、自由に意見を言いにくい雰囲気や、出役や行事の負担感が大きくなるなど、コミュニティに対するマイナスイメージも大きくなっている。また、町の将来について夢や希望を持たず、諦めの風潮が懸念される。

⑦ 地域医療の不足

地域の診療所では待ち時間が少なく、時間的にも柔軟に診察を受けられるなど利点もあるが、小児科や耳鼻科がなく、夜間の応急対応など特に子育て世代にとっての不足感が強い。

⑧ 空き家の増加

町域の中心部においても空き家が目立つようになり、危険空き家の増加、治安に対する不安がある。早急に移住・定住の促進と合わせて、空き家の利活用が求められる。

3 今後求められる取組

地域の「強み」と「弱み」を踏まえ、今後の地域づくりに向けては次のような取組が求められます。

(1) 地域内での取り組み

① 高齢者支えあいの仕組みづくり

全国的には2025年に高齢者の数がピークを迎えると言われている。しかし、千種町では、全国よりも早くピークを迎えようとしており、小地域福祉活動の推進や給食・配食の拡充など地域の中で支えあう仕組みづくりが喫緊の課題となっている。

② 若者向け住宅・子育て支援の充実

若者・子育て世代の定住化に向けては、全市で取り組んでいる空き家活用や住宅支援の取組と合わせて、地域全体で子育て支援の更なる充実を図る取組が求められる。

③ 交通環境の改善

公共交通の運行見直し改善に加え、シェアリングエコノミーの活用などにより、若者から高齢者までみんなが安心して利用できる交通環境への改善が求められる。また、合わせて国道429号志引トンネルの早期開通など、ハード面での条件整備も重要な要素となる。

④ 商品・観光開発(儲かる仕組みづくり)

地域内での経済循環を活発化するとともに、千種ならではの地域資源を活用して、地域の外からも多くの人に遊びに来てもらえるような商品・観光開発が求められる。

⑤ イベント・賑わいの場づくり

地域に暮らす住民自身が、千種により愛着を持てるようなイベントや、若者向けにUターンを呼び掛けるイベント、子育て世代には土日でも遊べる屋内施設や、キッズスペースのあるカフェなど、地域活力の創出に向けたイベントや賑わいの場づくりが求められる。

⑥ 教育環境の更なる充実

近年は地域の教育環境によって住む場所を選ぶ保護者もみられることから、県内でも特色のある取組である園小中高連携事業やスキー・ゴルフなど地域の資源を活かした教育、グローバル社会に適応した外国語教育の実施など、特色ある教育環境の充実が求められる。

⑦ 自然資源の活用

観光はもとより、暮らしやすい地域環境を維持・発展させるとともに、魅力ある子育て環境の魅力化に繋げるためにも「『どがいじゃろえ』地域プラン」や「日本一の風景街道づくり」構想に基づき、地域ぐるみでの環境整備、自然環境の保全と活用が求められる。

⑧ 安全安心な社会環境づくり

災害時の避難所や備蓄機能はもとより、平常時から防災意識を高め、安心して暮らせる社会環境づくりが求められる。

(2) 地域外への発信

① 教育・子育て環境の魅力発信

特色ある千種高校の取組や、充実した施設、あたたかいコミュニティなど恵まれた子育て環境の魅力を広くアピールし、地域外からの人材の誘致に繋げる取組が求められる。

② 自然を活かしたプロモーション

「日本の名水 100 選」に選ばれた清流千種川や、日本最大級のクリンソウ群落など地域ならではの自然環境を活かしたシティプロモーションの取組が求められる。

③ 交通環境の改善

鳥取・岡山方面からのアクセスを含め、交流人口の増加に向けた交通環境の改善が求められる。

④ 企業・事業者向けの情報発信

地域での仕事・収入の場の確保に向けて、地域外の企業等に対しても地域の魅力を発信し、企業誘致を促進するための取組が求められる。

4 千種生活圏の拠点整備方針

千種生活圏の拠点づくりに向けては、地域が一体となって今後求められる取組を推進していくために、以下の方針のもと必要な環境整備、施設整備を行うこととします。

(1) コンパクトプラスネットワークの実現

千種町域では中心部の比較的コンパクトなエリアに様々な機能が集中していることから、これらの相互連携と、集落部を含めた生活圏全体のネットワーク化を実現するための条件整備を行う。

(2) 世代間・地域間の交流促進

子育て世代や高齢者、若者や高校生など、それぞれの世代が気軽に集い、交流出来る空間づくりを行う。

(3) 地域経済活性化と買い物の場の維持・確保

持続可能な地域運営に向けて、地域の中で経済が循環する仕組みづくりを行うとともに、目下の不安要因である買い物の場の維持・確保に必要な施設整備を行う。

(4) 地域の文化や地域情報の発信

更なる観光誘致や地域内での交流促進に向けて、交流人口だけでなく、関係人口の増加、更には定住人口の増加を図るため、地域の文化や情報の発信拠点を設ける。

(5) 安全安心の拠点づくり

災害時の避難所や備蓄機能はもとより、平常時から防災意識を高めるための施設整備を行う。

【パターン2】機能の大部分をエーガイヤに集約する場合

現千種市民局	エーガイヤちくさ
⑪ 防災・避難所・備蓄機能	① 行政窓口、② 生涯学習事務所・文化ホール、 ③ 子育て支援センター、④ 保健福祉センター、 ⑤ 医療機関、⑥ 社会福祉活動の拠点、⑦ 高齢者集いの場、⑧ 若者・学生の集いの場、⑨ 公共交通のハブ機能、⑩ 観光振興の拠点 ※ 機能の割当はイメージです。

○ メリット

- ・ 行政機能、生涯学習機能、子育て支援センター機能などが集約されるため、利用者の利便性が高まる。
- ・ 既存の子育て支援センターや福祉設備が充実している。改修することでエーガイヤの長寿命化が図られ、更なる充実と建設費が抑えられる。

× デメリット

- ・ ホール機能を確保するためには、新たな用地の取得が必要となる。または、屋内運動場の移設が必要となる。
- ・ 拠点エリア中心部の空洞化が懸念される。
- ・ 木材利用のイメージを打ち出し難い。
- ・ 千草自治会の自治集会所が必要になる。

【パターン3】現市民局とエーガイヤの双方に機能を分散する場合

現千種市民局	エーガイヤちくさ
② 生涯学習事務所・文化ホール、⑦ 高齢者集いの場、⑧ 若者・学生の集いの場、⑩ 防災・避難所・備蓄機能、	① 行政窓口、③ 子育て支援センター、④ 保健福祉センター、⑤ 医療機関、⑥ 社会福祉活動の拠点、⑦ 高齢者集いの場、⑧ 若者・学生の集いの場、⑨ 公共交通のハブ機能、⑩ 観光振興の拠点 ※ 機能の割当はイメージです。

○ メリット

- ・ 施設規模の大きな文化ホールを他の施設と分ける事で、駐車場などに余裕を持たせた整備が可能となる。
- ・ 行政機能、子育て支援センター機能、福祉機能などが集約されるため、利用者のニーズに応じたサービスが提供できる。
- ・ 文教ゾーンと連携することで、子どもから高齢者までの生涯学習の充実が図られる。
- ・ 商店街の空き家の活用も含めて検討することで地域全体の活性化につながる。

× デメリット

- ・ 二つの拠点に距離があるため、拠点エリア内での2次交通など、移動に配慮を要する。
- ・ 二つの拠点を一体的な拠点施設として運用するため、他の既存施設も含めて、利用者の動線を確保する必要がある。
- ・ パターン1、2と比べて利用者の利便性は若干悪くなる恐れがある。

7 千種生活圏拠点エリアの全体像

千種生活圏の拠点エリアにおいては、現市民局とエーガイヤの他に様々な既存施設を連動しながら、一体的な機能を発揮して、生活に必要な機能の維持・向上を図る社会環境づくりをめざします。

